

該当ページ	章・節	該当箇所	誤	正
4	目次	1.12	CO ₂ で	CO ₂ 利用で
8	英単語略語表	A-USC	Advanced Ultra Super Critical	Advanced Ultra Super Critical Power Plant
9	英単語略語表	GTCC	カスタービン	ガスタービン
10	英単語略語表	MASA	MASA	NASA
11	英単語略語表	USC	Ultra Super Critical	Ultra Super Critical Power Plant
17	1.1	図1.3 縦軸の単位	CO ₂ ppm/年	CO ₂ ppm
19	1.2	図1.6	※横軸の記載がない	1959～2016までの数字を目盛りとともに追加
22	1.4	図1.9 縦軸の単位	℃/年	℃
23	1.4	図1.10(b) 縦軸の単位	℃/年	℃
30	1.6	図1.14 出典	～もとに作成	～もとに作成 (複数の産業廃熱量が示されているのは、複数のデータソースによる)
33	1.7	脚注2	※削除	
34	1.7	脚注2	※追加	EOR
36	1.8	下から13行目	窒素	空気
36	1.8	下から12行目	製造され、	製造される。
36	1.8	下から11行目		※37ページ1行目の③の反応式追加
48	1.12	6行目	農地還元後	農地に還元後
64	2.4	1行目	パイプラインが漏洩した場合、	パイプラインからCO ₂ が漏洩した場合、
64	2.4	1行目	空気より非常に重い	空気より非常に重く
64	2.4	「(3) 船舶での輸送」5行目	[8]	[9]
64	2.4	「(3) 船舶での輸送」9行目	[8]	[7]
65	2.4	「[3] 輸送の経済性」6行目	[7]	[9]
65	2.4	「[3] 輸送の経済性」10行目	[7]	[9]
65	2.4	「[3] 輸送の経済性」12行目	[7]	[9]
65	2.4	「[3] 輸送の経済性」15行目	[8]	[9]
66	2.5	「(1) CO ₂ 科学吸収液を比熱の小さい溶液に変更する方法」2行目	[9]	[10]
67	2.5	6行目	[10]	[11]
67	2.5	10行目	[11]	[12]
67	2.5	図2.14 出典	[12]	[13]
68	2.5	1行目	固体溶剤 (個体吸収法)	個体吸収法
68	2.5	図2.15 出典	[13]	[14]
69	2.5	図2.16 出典	[14]	[15]
69	2.5	図2.17 出典	[14]	[15]
70	2.5	3行目	[15]	[16]
75	3.1	図3.3	メタノール/DME合成	メタノール/DME合成燃料
75	3.1	図3.3	図3.4と同じ個所に追記	合成燃料輸送
77	3.2	図3.5 左「海外」	メタノール	メタン
78	3.2	下から5行目	カスタービン	ガスタービン
81	3.3	図3.9	サバティニ反応	サバティニ反応
89	4.2	下4行目	天然ガス生産に伴う	天然ガスに伴う
89	4.2	下2行目	開始している。	2004年から2011年まで実施していた。
96	4.4	図4.7	年度	年度 (1990～2018)
99	4.4	小見出し	②セメントにCO ₂ を固定化する	②コンクリートにCO ₂ を固定化する
103	4.5	4行目	重質ピッチとして原料としており、	重質ピッチの原料として、
107	4.6	図4.15下2行目	地下水と同様井戸によって～	地下水と同様、井戸によって～
110	4.6	下から5行目	約年間1000万バレル	年間約1000万バレル
110	4.6	下から4行目	約年間10950万バレル	年間約10950万バレル
111	4.6	下から3行目	○で示される	●で示される

129	5.2	図5.3		
157	5.7	図5.19		
158	Column4	3段落目1行目	500B/D	500バレル/日
162	5.8	脚注6の2行目	2020年までに2005年度比～	2050年までに2005年度比～
169	5.1	図5.24		
190	6.2	下から5行目	かつてはエチレングリコールも、その多くを輸入していたが、エチレングリコールを原料とするPET樹脂 (polyethylene terephthalate) の国内生産量の減少にとまぬ輸入量が減少している。	かつてはエチレングリコールも、年間10万トン以上を輸入していたが、現在は年間約5,700トンまで減少している。
206	6.6	9行目	石炭業界 (NCC～	石炭業界の協会 (NCC～
206	6.6	表	1章7節	1章7節
206	6.6	下から6行目	億	億
207	6.6	1行目	硝酸体窒素	硝酸態窒素
207	6.6	脚注2	紙おむつなどに	紙おむつなどに
213	7.1	上から9行目	酸素精製	酸素製造
213	7.1	図7.1		
216	7.2	下から3行目	下記の反応式から分かるように～	図7.3の上に記載した電気化学反応式からわかるように～
217	7.2	下から2行目	他方水電解反応に必要なエンタルピー変化～	一方、水電解反応に必要なエンタルピー変化～
217	7.2	脚注2	104℃	10℃
218	7.2	「(2) アルカリ水電解」1行目	KOH	KOH (水酸化カリウム)
219	7.2	下から2行目	実用化しているほか[6]	実用化しているほか (5章13節参照) [6]
220	7.2	14行目	⑤で紹介した二段発酵法で生じた～	⑤水素発酵で紹介した二段発酵法で生じた～
225	7.3	注釈4	直接利用コストは脱水素コストを除いたもの	※削除 (前文と重なるため)
226	7.3	2行目	燃料電池自動車1台約5kg程度の	車種にもよるが、燃料電池自動車1台あたり約5kg程度の

231	7.3	図7.8	<p>2016年5月4日の電給バランス</p> <p>図7.8 余剰電力発生時刻の実例 出典：九州電力「九州電力における再生エネルギー接続の現状と今後の対応」(2017) P8をもとに作成</p>	<p>2016年5月4日の電給バランス</p> <p>図7.9 余剰電力発生時刻の実例 出典：九州電力「九州電力における再生エネルギー接続の現状と今後の対応」(2017) P8をもとに作成</p>
232	7.4	下から2行目	2.42セント/kWhとされている[29]。	2.65～2.66円/kWh程度とされている ^[29] (Column 6参照)。
239	8.1	3行目	技術的に可能な発電ポテンシャル	技術的に可能な太陽電池による発電ポテンシャル
272	9.4	下から1行目	必要な	必要な年
273	9.4	2行目	2.5円/kWhの変動費としてカウント	電気-メタノール転換率を加味して2.5円/kWhの変動費としてカウント
286	参考文献	2.4	※ [9] 追加	[9] 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構,「次世代火力発電等技術開発/次世代火力発電技術推進事業/高効率石炭火力実現のための経済性評価」,(2017.10).
286	参考文献	2.5	[9]	[10]
286	参考文献	2.5	[10]	[11]
286	参考文献	2.5	[11]	[12]
286	参考文献	2.5	[12]	[13]
286	参考文献	2.5	[13]	[14]
286	参考文献	2.5	[14]	[15]
286	参考文献	2.5	[15]	[16]
286	参考文献	2.5	[16]	[17]
298	索引	EO	※削除	
299	索引	固体溶剤	※削除	
303	著者略歴	水田美能	(ミズタ ヨシハル)	(ミズタ ハルヨシ)